

千住淳博士講演会

(第10回グローバルCOE共催講演会：ユニットA)

タイトル：社会脳の定型・非定型発達

日時：2008年2月27日(水)10時30分～12時00分

場所：京都大学教育学部 第一講義室

講演者：千住淳博士(英ロンドン大学バークベック・カレッジ、リサーチフェロー)

お問合せ：子安増生 HGB03675/at/nifty.com

講演者紹介

千住淳さんは、東京大学教養学部卒業、東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了後渡英、現在ロンドン大学バークベック・カレッジの脳・認知発達センターで社会脳(social brain)の発達の起源ならびに自閉症スペクトラム障害の非定型脳機能発達の研究を行っている新進気鋭の研究者である(<http://www.cbcd.bbk.ac.uk/people/scientificstaff/atsushi>)。これまで、日本基礎心理学会優秀発表賞、東京大学総長賞、日本心理学会国際賞奨励賞などを受賞し、その研究は若くして既に国際的に定評がある。今回は、日本での別のシンポジウム出席の合間をぬって、京都大学でも「社会脳の定型・非定型発達」というテーマで講演していただくことになった。

講演要旨

これまでの研究により、ヒトの脳の一部は社会的な情報の処理に特化したネットワーク、いわゆる「社会脳」を形成していることが明らかとなってきた。しかしながら、こういった「社会脳」が発達的にどのように形成されるのかについての研究は未だ進んでいない。今回の講演では、社会脳の定型・非定型発達の様相について、演者がこれまでに行ってきた研究を中心に概括し、社会脳の発達の基盤について議論する。前半では主に定型発達乳児の研究を通して、アイコンタクトなどコミュニケーションに関連した刺激への反応性が、社会脳の発達の基盤の一つとなっている可能性について議論する。後半では対人相互反応やコミュニケーションに発達の障害を抱える自閉症スペクトラム障害児を対象とした研

究を通じて、自閉症者がコミュニケーション関連刺激に対して非定型な反応を示すことを紹介し、その認知的基盤について議論する。さらには、自閉症者における社会脳の非定型発達が生臨床像の発現に与える影響について、実証データを中心に議論したい。

Atsushi Senju, Ph.D.
Research Fellow
Centre for Brain and Cognitive Development
Birkbeck College
Malet Street London WC1E 7HX
Email: a.senju/at/bbk.ac.uk